

第2回 旭川流域連絡協議会（建部ブロック幹事会）議事録

日時：平成15年8月21日（木）10：00～12：30

場所：建部町文化センター

参加者：御津町、建部町、加茂川町、賀陽町、久米南町、中央町、旭町

岡山県土木部河川課、河川開発課、建部建設事務所、国土交通省岡山河川事務所

打合せ事項

防災フォーラムにむけて、第11回協議会で依頼していた被害軽減対策調査表について、各市町村毎に発表を行った。

御津町

- ・防災計画書に基づいて、総務が防災体制を指示。水防団は全員出動
- ・一般住民に対しては、広報車で避難の呼びかけ。現在は区長へのFAX連絡を整備。
- ・浸水被害については、3地区で床上浸水。越水による被害のため河川の掘削、植生の除去を要望。
- ・消防団、業者との連絡がうまくいったため、浸水地区の排水は迅速に行うことが出来た。業者から発動発電器を無償で借り受けられた。
- ・保健衛生では、屎尿処理に時間がかかった。
- ・下流市町村としては、流木処理をきちんとお願いしたい。

建部町

- ・水道復旧に2週間を要した（工事は10日間昼夜問わず行ったが）
- ・ボランティア（商工会青年部、福渡高校、建部の会、岡山生協）による応急給水。（老人宅への水輸送など）
- ・一般住民に対しては、広報車による避難の呼びかけ。
- ・旭川ダムからは放流量 $650\text{ m}^3/\text{s}$ 以降は警報が無く、出水が夜だったため流量の判断ができなかった。H12くらいからは県の消防防災システムを利用している。
- ・樋門操作について
 - 本川からのバックの流入で浸水被害があった。
 - 樋門までの道路（堤防上）が危険である。
 - 樋門を閉めるタイミングが難しい。（夜だと水位の確認がしづらい）
 - 各地区で判断するしかない。
- ・保健衛生対策を災害後1週間行っている。（チラシ配布、井戸水検査など）
浸水家屋の消毒に時間を要した。

加茂川町

- ・ 毎年の災害の規模が大きい程度で大災害ではなかった。
- ・ 全壊一戸の原因は裏山の法崩れ
- ・ 浸水家屋がでたのは、樋門操作が間に合わなかったため。
- ・ 浸水家屋に対しては、消毒、生石灰配布をおこなった。
- ・ 大きな災害の場合は、県に人員派遣をしてもらい対応している。施設災害の把握には対応できる。
- ・ 情報の窓口の一本化をお願いしたい。情報の錯綜、窓口が不明確。
情報伝達経路そのものによけいなルートがあるのではないか、水防体制の現状など、河川課建設課に聞いても分からない情報についての質問がある。

賀陽町

- ・ 公共被害では広域農道が年末まで通行止めとなったことが一番大きい。
- ・ 賀陽町は河床勾配が緩いところが多いので、河床に砂が溜まって断面が確保できない。河川の浚渫は国の補助が出ないので、町で負担するのは厳しい。
補助の対象にするにしても、浚渫だけでなく河道拡幅も出来るようにしてほしい。
- ・ 刈草で用排水路が詰まることがあるので、管理をきちんとしてほしい。

久米南町

- ・ 浸水は小規模河川からの内水被害。
- ・ 給水、保健衛生は災害後、2～3日で対応完了。
- ・ H10年当時は防災無線が未整備だったが、現在は整備済み
- ・ 老朽化したため池の改修、対策を要望。河川については、まず浚渫。
- ・ 消防無線の改良（中継基地の増設）により、無感地帯はほぼ解消した。

中央町

- ・ 町内放送による避難呼びかけで人的被害はなし。
- ・ 避難場所に看板を設置するなど、分かりやすくしてある。避難に特に問題はなし。
- ・ 小規模河川の水位を住民に知らせたいが分からない。
- ・ 道路の通行止め情報は早く出して欲しい。

旭町

- ・ 避難は自主避難とした。
- ・ 幹線道の崩壊のため、被災現場へ近づけず。
- ・ 砂防ダムがすでに満杯になっている 次の大雨が危険。
- ・ 井堰の管理者を決めていないために、堰板を一年中閉めているので土砂堆積が進んでいる。
- ・ 死者の原因は裏山人工林（下草なし）の崩壊だった。
- ・ 携帯電話は現在では全町ほぼ通じるようになった。

その他

- ・ 防災 F A X に分散。回線がパンクしたのでは情報を入手することが出来ない
- ・ 注意報、警報の頻度が高ければ、待機の判断が難しい。

第2回 旭川流域連絡協議会（真庭ブロック幹事会）議事録

日時：平成15年8月21日（木）14：30～16：30

場所：勝山木材ふれあいセンター

参加者：落合町、北房町、久世町、勝山町、湯原町、富村、美甘村、新庄村、八束村、川上村、岡山県土木部河川課、河川開発課、真庭地方振興局
国土交通省岡山河川事務所

打合せ事項

防災フォーラムにむけて、第11回協議会で依頼していた被害軽減対策調査表について、各市町村毎に発表を行った。

落合町

- ・ 保育園が避難場所となっているが、その場所は土砂災害危険個所に認定されている。矛盾の解消が必要。
- ・ 一人暮らし老人宅への連絡は行っている。
- ・ 床下浸水は、備中川の堤防越流による。
- ・ 住民からの連絡に対して対応しきれない（人員の不足）
- ・ 河川に生えている植生が流れを妨げる 伐採を要望。
河床浚渫を行いたい。
- ・ 町の河川は災害以外では改修する余裕がない。

北房町

- ・ 昭和47年災害よりは被害は少なかった。
- ・ 夜間にピークを迎えたため、対策をとるための情報の把握が難しかった。
- ・ 被災地での気象情報の不足。谷単位で気象状況が大きく違うので、もっときめ細かな気象情報がほしい。
- ・ 谷川の越流による床下浸水被害が発生。散発的なものであった。
- ・ 昭和47年災害により備中川の改修は終わっているはずだが、土砂流出、河床土砂堆積により、断面が確保できていない。

久世町

- ・ 雨はあまり多くなかったが、富村側に降った雨が目木川、余川に流入し氾濫被害。
- ・ 県道、町道で通行止めが多発し、孤立した箇所があった。
- ・ 電話がつながらない状態で、各区長、水防団単位で活動した。
情報が伝達できない不安
- ・ KHK（ケーブルテレビ）は災害後に活用。

- ・ H 1 5 . 3 に防災無線の配置が完了した。
- ・ 応援体制等に係る立法も考えてほしい。

勝山町

- ・ 谷川の越流による床下浸水が発生。また、本郷川橋梁に流木が引っかかったことにより、流出が阻害されたことによる浸水も発生。
- ・ 道路、河川共に公共施設災害が発生。
- ・ 8月にも災害が発生しており、災害申請を行うことができません。
- ・ 人員が少ないことも問題だが、すべての人員が災害時に適切な対応ができない。住民からの職員要請も多数あり、対応に困った。
- ・ 河床の土砂堆積はかなり溜まっている。河床浚渫を要望
- ・ 同じ町内、数km離れただけで雨の降り方が違う 局地降雨
- ・ 消防団員の減少が問題。各地域に水防経験者はいるが、コミュニティ防災と合わせ、どう活用するかが今後の課題。

湯原町

- ・ 平成9年災害の方が被害は大きかった。
- ・ 浸水被害は溪流の氾濫によるもの。
- ・ 避難は水防団で行った。
- ・ 町職員の災害に対する意識低下 防災訓練なし（近年大規模災害がない）

富村

- ・ 道路の分断により通行が出来ない箇所が多発（奥津方面のみ通行可）
- ・ 当時は携帯電話が繋がらない場所もあり、情報伝達に苦労。
- ・ 雨が降った後に警報が発令される
- ・ 携帯電話は地震時に機能しないので、移動無線の整備が必要。

美甘村

- ・ 防災計画はあるが、夜間出水のため連絡系統がきちんととれなかった。
- ・ 河川内の浚渫が必要。
- ・ 携帯電話の不感地域があるので、消防団同士の連絡網が必要。

新庄村

- ・ 情報の混乱（住民からの多数の連絡）
- ・ 災害後でもいいので、人材の支援をお願いしたい。

八束村

- ・ 職員、水防団員が防災計画に則って待機したが、大きな被害はなし。

- ・ H 9 では大変だった（旭川決壊）

川上村

- ・ 雨が通り過ぎてからの警報発令では遅すぎる。
- ・ 山間部は同じ村内でも状況が違う。
- ・ 上流部では河川情報端末よりも気象情報の方が便利である。
- ・ 夜間の樋門操作は危険がある。道が悪くなり、行くだけでも大変。雷の時に金属を扱うのは怖い。樋門の電動化（水位感知式への切り替え）を行うことができないか。
- ・ 災害復旧で現状復旧ではなく、堤防高など少し余裕をもってできないものか。
- ・ 河川浚渫も要望。
- ・ 情報伝達は消防無線を先に整備した。移動系・車載で全村をカバー、消防ヘリにもつけた。

その他

- ・ 防災フォーラムに係る費用は流連の予算内で。足りない分は国で負担。

第2回 旭川流域連絡協議会（岡山ブロック幹事会）議事録

日時：平成15年8月25日（月）10：00～12：00

場所：国土交通省岡山河川事務所

参加者：岡山市、瀬戸町、山陽町、吉井町、岡山県土木部河川課、河川開発課、東備地方振興局、国土交通省岡山河川事務所

打合せ事項

防災フォーラムにむけて、第11回協議会で依頼していた被害軽減対策調査表について、各市町村毎に発表を行った。

岡山市

- ・情報入手先はフリックスからウェザーレポート社に変更している。
庁内LANを設置し、全職員が情報を共有している。
- ・旭川ダム放流量通知が途中で途絶えたためダムに直接問い合わせないと放流量が分からないようになった。その後、流量が一気に増加。流量が増えれば、連合町内会長に連絡するはずが、間に合わず。
百間川へ流入（改修後初）したため、樋門操作も間に合わず一部浸水家屋発生。
- ・岡山市への水防警報発令が間に合わず。
国 県 振興局 市という現在の情報伝達経路では遅すぎる。
岡山市は県からの情報により独自の判断で関係機関への避難勧告をしている。
- ・住民への避難伝達は広報車で行っている。

瀬戸町

- ・雨が降った後で本川が増水したため、排水が間に合い内水被害がほとんど発生しなかった。
- ・弓削の河川公園では増水時、トイレや東屋の撤去を行うが平成10年は水位の上昇が早く間に合わなかったため、現在では撤去を早めに行うようにしている。
- ・用水樋門操作は各地区で行っている。
排水機場にはFAXで水位状況を知らせている。
- ・防災無線が出来る前だったので、放送塔により住民へ連絡。
ハザードマップを全戸へ配布済み。年に1回、区長会で水防啓発を行っている。
- ・砂川の下流の流下能力が改善されていないので、排水機場の運転を止めなければならないことがあるので、早期に改修してもらいたい。

山陽町

- ・特定の箇所でもいつも浸水被害が発生する。砂川の影響であり、これが改修されなけれ

ばどうしようもない。

- ・砂川の改修を要望。

吉井町

- ・雨がやんだ後、夜の出水だったために、準備が出来ていなかった。
情報が遅れ遅れとなり、住民への周知は災害後となってしまった。
- ・国道484、387の接点部が浸水したため、交通の確保が出来なかった。
- ・支川からの越流、本川の越流、陸閘門からの出水によりかなりの浸水被害が発生。陸閘門では、久々の出水だったため、資材が足りなかった。
- ・現場に精通した人手が足りなかった。
- ・災害後のトイレの確保、ゴミ処理で問題が発生。
- ・東備管内の他町からの応援で助けられた。
- ・避難場所はコミュニティハウスとしており、比較的高台にあるが、低いところにある1箇所が浸水被害をうけた。

東備地方振興局

- ・情報伝達経路が複雑で伝達が遅れた。
- ・受信専用のFAXは必要。